

RIHE2021年度 公開研究会
(2021/12/10)

中国人留学生がいかに海外（日本）で 中国研究を実施するのか？

—学位論文の執筆を中心に—

信州大学・東北大学 李 敏
limin@shinshu-u.ac.jp

「一回目：修士課程、博士課程における学習、研究と生活」の振り返り

- 日本の大学院教育の特徴の一つは、同じ学部・研究室からのストレート進学がいまだに主流であるため、大学院で学習する際に必要な基礎知識及び関係の技能は学部段階で習得済みと見られ、改めて教えることはない。

⇒必要な専門基礎知識及び研究のための知識と技能は進学前後で独自で補強する必要がある。

- 学術日本語には慣れていない。

⇒ひたすら読む、書く。

中国語の専門書も併せて読むこと。

できれば英語の学術本も読むこと。

- 学位論文の研究に限らず、幅広く学習すること。
- アカデミックネットワークを構築すること。
- 研究室から出て、日本社会を知ること。

本日のお話：学位論文の執筆

- 段階 1：研究テーマの決定
- 段階 2：論文執筆までの準備
- 段階 3：論文執筆中
- 段階 4：論文完成後の調整
- 李の学位論文の執筆の振り返り

大きな課題

- 中国研究 or 日本研究？
 - 研究テーマに関する基礎専門知識が皆無の状態では、比較研究を実施する力量はあるはずはない。
 - 日本・中国のどちらかの一方の研究に集中したほうが現実的である。
 - ただし、修業年限内で学位を取得することを目標とするならば、論文のテーマの選択は相当戦略的にならざるを得ない。

- 北京日本学研究中心の修了者に対する研究では：

修士：日本研究を中心（中国にいるから）

博士：中国研究を中心（日本にいるから）

現在（就職後）：日中比較

ただし

- たとえ中国研究をしても、背後には日本との比較という視点が欠かれない。

海外（日本）における中国研究の意義

- ・意識しなければならない要点

- ・ 海外（日本）の類似した内容との差異化
- ・ 中国国内の類似した内容との差異化
- ・ 関係研究への貢献

⇒ 研究の昇華

- ・ 中国の制度についての説明

- ・ ただし、無理して比較を行う必要は全くない。

- ・ 直接比較を行わないとしても、問題意識、研究方法についての比較の痕跡を残しておく。
- ・ 海外（日本）との相違の原因を合理的に解釈する。
- ・ 同じく非欧米圏国家として、日本との相違とその原因を探る。

何をテーマにするのか

- 自分の興味関心のある内容
- 博士課程の研究、就職を見据えて長期にわたって研究する価値のある内容
- 社会（日本・中国・世界）に役に立つような内容
- 資料入手、調査実施の可能性のある内容

- 何が問題なのか。
- なぜ問題なのか。

について答えられるのか？

中国研究の落とし穴

- 何をもって「**中国**」とするのか。
- 高等教育に関する伝統、インフラ、進学者の質、教育の実施方法、さらに労働市場が各地で全く異なる。



- あえて「中国」研究という野心を捨てて、中国における「**〇〇地域**」の研究に注力したらどうか？
- そのうえで、「**〇〇地域**」の特殊性と共通性から**中国全体の特徴**を主張したらどうか？

本日のお話：学位論文の執筆

- 段階 1：研究テーマの決定
- 段階 2：論文執筆までの準備
- 段階 3：論文執筆中
- 段階 4：論文完成後の調整
- 李の学位論文の執筆の振り返り

とにかく、先行研究を広く読むこと。

- 研究テーマに関連する基礎知識の学習

李的实践

修士：テーマが決まらず大変困ってしまいました。

教育を研究テーマにしたい。

高等教育よりも、むしろ初等中等教育

修士論文に向けての学習

- 『教育学大全集』

3.近代化と教育

4.教育の経済学

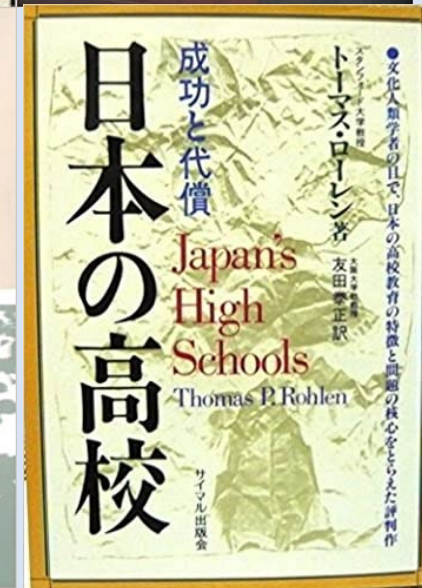
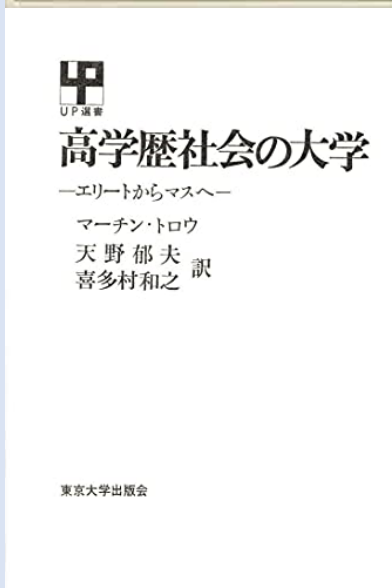
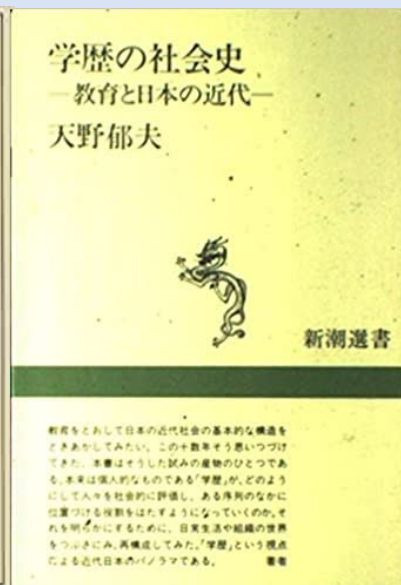
5.教育と選抜

6.大学と社会

10.家庭と教育

11.現代学校論







子ども・学校・社会

「豊かさ」のアイロニーのなかで

藤田英典

東京大学出版会

藤田英典著

教育改革

—共生時代の学校づくり—



社会の英知が 試されている

岩波新書/最新刊 定価(本体630円+税)

マイヤー教育社会学の研究

藤村正司著

風間書房

教育社会学

柴野昌山・菊池城司・竹内洋

有斐閣ブックス

改訂版

教育社会学

天野郁夫・藤田英典・菊谷剛彦



東京大学出版会

J・カヘル／A・Hハルゼー 編 潮木守一／天野郁夫／藤田英典 編訳

教育社会学のパラダイム展開

教育と社会変動 上

教育社会学のパラダイム展開 J・カヘル／A・Hハルゼー
教育における階級と意識 R・コリンズ
イリタジーの源 A・Hハルゼー
学校制度と学力水準 T・アセン
教育の不平等と社会的分層の再生産 S・ボールズ
道徳教育としての宗教 A・V・レヴィン／J・マズ
学校教育におけるイデオロギー論議 R・C・クリスト
学校教育方法のイデオロギー論議

東京大学出版会

J・カヘル／A・Hハルゼー 編 潮木守一／天野郁夫／藤田英典 編訳

教育社会学のパラダイム展開

教育と社会変動 下

教育システムの類型等 E・J・ケッパ
アメリカ中等教育の構造 M・J・ロウ
教育と経済的平等 J・C・マズ
コミュニティ・カレンシと社会階層 J・カヘル
アメリカ教育の変遷 M・J・ケッパ
ソビエト社会主義教育 A・Hハルゼー
ソビエト社会主義教育のイデオロギー論議
教育と社会階層の政治的変遷 M・J・ケッパ
教育と社会階層の政治的変遷 M・J・ケッパ
教育と社会階層の政治的変遷 M・J・ケッパ
教育と社会階層の政治的変遷 M・J・ケッパ
教育と社会階層の政治的変遷 M・J・ケッパ

読む時の要点

- ① 「精読」（繰り返して読む）と「汎読」（広く浅く読む）の併用
- ② 学習ノートをつけること
- ③ トップの先生の論文のまねをすること（そのまま写すことも方法の1つ）
李は天野郁夫先生のファン
- ④ 絶えず練習すること（特に文章を書くこと）

ロジカルシンキングを訓練する絶好の方法

精読と汎読

- 精読

- 古典、教科書になるような図書（3冊程度読む）。
- 繰り返してじっくりと読む。
- **ノートをつける。（外国語の本を読む時はとりわけ重要）**

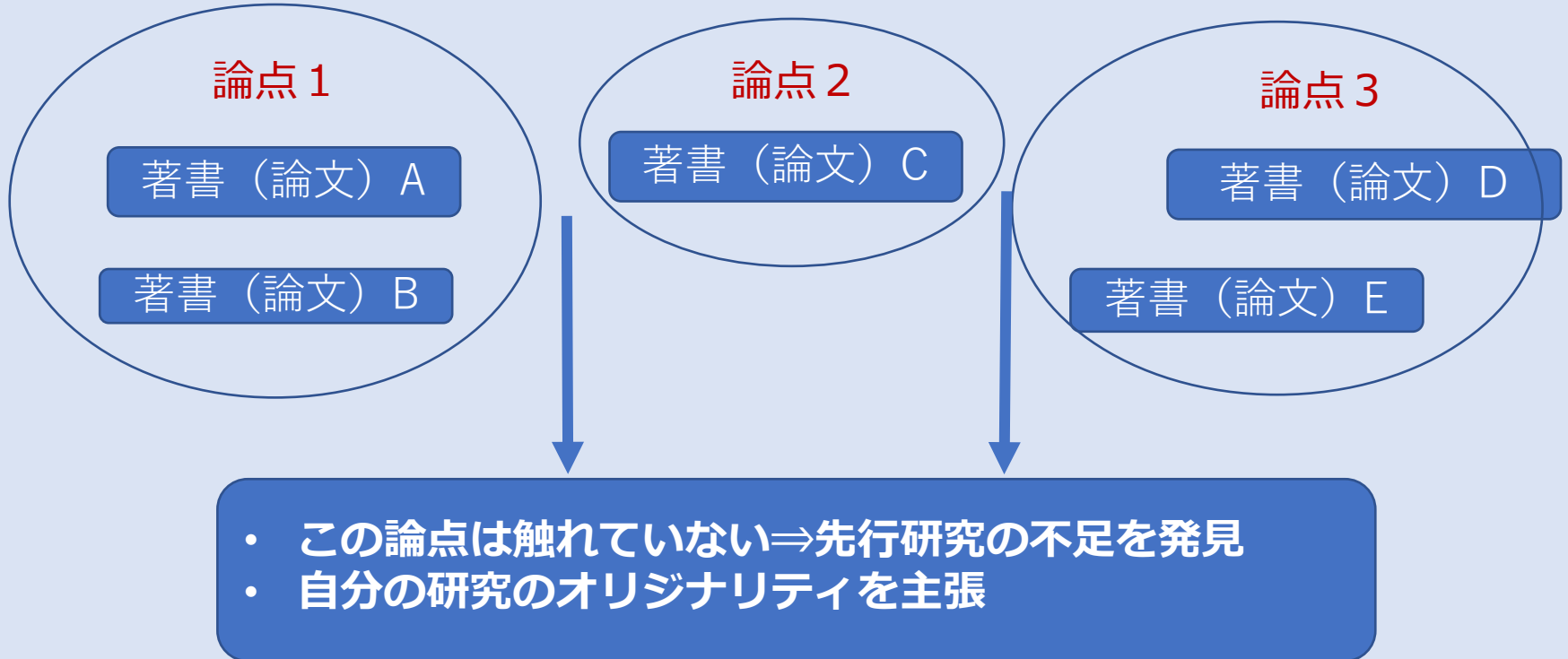
ただし、もしまとめではなく、そのまま写す場合は、必ず、ページ数を記録しておく

- 汎読

- 関連の研究を浅く広く目を通す。

こまめにまとめる

- 精読、汎読を問わず、それぞれの論点についてまとめる。
- 一定の量を蓄積したら、まとめる



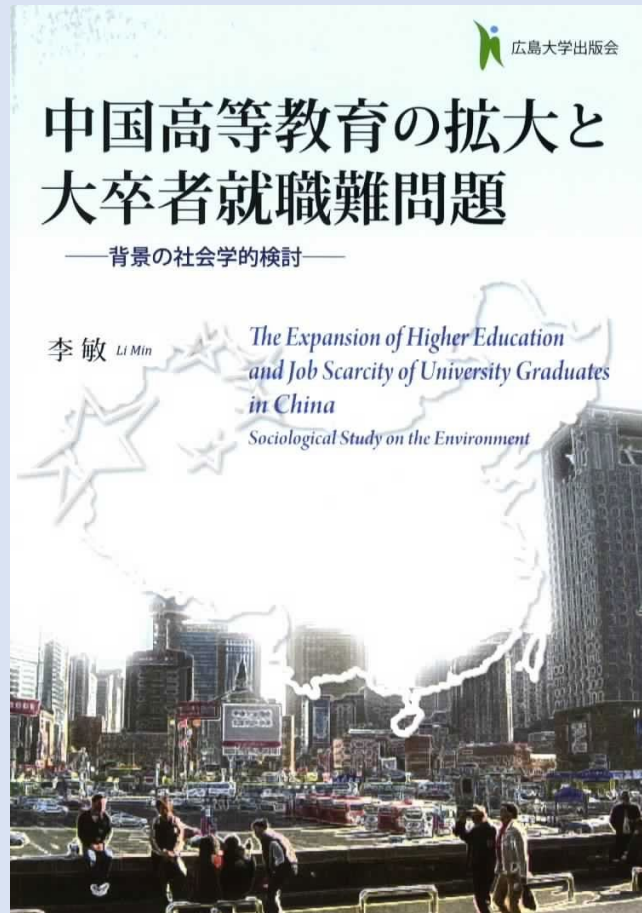
修論のテーマの決定



「第4章 選別のなかに潜む『ジェンダー』—進学向上策のなかの共学校」,pp.63-92)

- 修論テーマの確定：修士課程の第4学期
- 関係の先行研究を蒐集してひたすら読んでまとめる。
斬新なテーマではあるが、土台となる知識をすでに持っているので、すぐに新しい研究に取り組むことができた。
- 調査に関するスキルを指導教官、チューター、独学で習得する。
- ゼミと研究会に参加することを通して視野を広げる

博論の書き方



- テーマは自分の興味関心（経験者）
- 当時の日本と中国の高等教育研究においては、参考になる価値のあるテーマ
- 関係の調査を実施することが可能

大きな刺激を受けた二冊



高等教育以外の領域の学習

- 計量分析の学習
(論文を読みながら学習するのも方法の1つ)
- 労働経済学の学習
- その他の学習
- 日本語の文献に限らず、海外の最新研究の学習

学会発表と投稿論文

- 漠然とした意識でよいが、興味のある部分から着手する。
- できるだけ、学会発表と学術誌の投稿にチャレンジしてみる。
- 小さな目標を作る。

→自分で締め切りを作り、常に論文作成の意欲を掻き立てる。

本日のお話：学位論文の執筆

- 段階 1：研究テーマの決定
- 段階 2：論文執筆までの準備
- 段階 3：論文執筆中
- 段階 4：論文完成後の調整
- 李の学位論文の執筆の振り返り

- 思い切りが必要である。戦場に赴く毅然とした態度で臨む。
- その世界に浸かる。論文以外の情報を受け付けない。
- すべての材料（先行研究、発表した論文）を改めて目を通し、その内容を紙に書き出す。
- こうした材料で、どのようなストーリーが作れるのかといくつかの案を立てて、レシピーを作る。
- レシピーをみながら、欠けた材料を補足する。
- 投稿論文もそのまま貼り付ける。
- 序章は最後に書く。

本日のお話：学位論文の執筆

- 段階 1：研究テーマの決定
- 段階 2：論文執筆までの準備
- 段階 3：論文執筆中
- 段階 4：論文完成後の調整
- 李の学位論文の執筆の振り返り

- 個別した論文の集めではなく、各章の間の起承転結をより自然に。各章の中の先行研究と論文全体との関係に注意。
- 重複した箇所の処理。
- 書いた内容の飛躍があるかどうか、自分が当たり前という知識が読む相手と共有するものであるかどうか、熟考の上に、先行研究の修正を行う。特に日本人教員を相手にする論文なので、中国の制度についての説明があるかどうかにも注意。
- 論文全体は面白いストーリーになったのかを改めて読んでみる。序章で提起した問題は、終章ですべて回答を出したのか。（首尾一貫のため）

本日のお話：学位論文の執筆

- 段階 1：研究テーマの決定
- 段階 2：論文執筆までの準備
- 段階 3：論文執筆中
- 段階 4：論文完成後の調整
- 李の学位論文の執筆の振り返り

特に研究方法の多様化

- 意外にも興味深い**歴史研究、政策研究**
 - 個別問題を理解するために、その血筋を徹底的に調べる必要がある。
- 高等教育の問題を研究する際には、**それに関連する問題**も念頭に入れる必要がある。
 - 接続としての初等中等教育、社会階層の移動、労働市場などのように研究課題を立体的に紡ぎだす。
- **量的研究と質的研究**の併用
 - アンケート調査偏重の限界性
 - マクロデータの活用（大学の学務データも含む）
 - インタビュー調査による具体化

例えば：マクロデータの活用

2007年各地域の人口・産業・職業・高等教育の状況

指標	東部地域		中部地域		西部地域		東北地域	
	全国に占める比率	総人口に対する指数	全国に占める比率	総人口に対する指数	全国に占める比率	総人口に対する指数	全国に占める比率	総人口に対する指数
総人口	36.5	100.0	27.2	100.0	27.9	100.0	8.4	100.0
就職								
年度末就業人口	44.6	122.2	22.0	80.9	23.0	82.4	10.4	124.1
失業率	3.3		3.9		4.1		4.6	
国民経済								
GDP	55.3	151.5	18.9	69.5	17.4	62.4	8.5	101.4
第一次産業	36.7	100.5	26.6	97.8	26.8	96.1	9.9	118.1
第二次産業	56.7	155.3	18.6	68.4	16.0	57.3	8.7	103.8
(そのうち) 工業	57.8	158.4	18.2	66.9	15.2	54.5	8.7	103.8
第三次産業	58.4	160.0	17.2	63.2	16.6	59.5	7.8	93.0
高等教育								
学校数	40.3	110.4	25.2	92.6	24.5	87.8	10.0	119.3
進学者数	40.9	112.1	27.3	100.4	22.1	79.2	9.8	116.9
在学生数	41.3	113.2	27.3	100.3	21.3	76.3	10.0	119.3
卒業生数	40.4	110.7	28.7	105.5	21.3	76.3	9.5	113.3

- いくら分厚い学位論文であっても、パターンがある。

何が問題なのか。なぜ問題なのか。どのようにその問題を解決するのか。提起した問題をそれぞれどのような結論を得たのか。

- 自分の研究のオリジナリティーがどこにあるのか、常に問うこと。

学位論文が大きなまとめになっただけなら、失敗と言わざるを得ない。

- 早めに着手して、一気に完成。そして、論文を「寝かせる」こと。

- 指導教官、先輩、後輩の意見を聞くのも大事である。
- ただし、意見を採用するかどうかを決めるのは自分である。
- 日本語・英語などのネイティブ・チェック。

.....

- ご静聴、ありがとうございました！